



昭和四年十二月一日印刷
昭和四年十二月五日發行

聖農

創刊號

目次

發刊之辭	一
社説	三
聖農社之助氏傳	五
坂本榮社要則	七
聖農社製造成績	一三
菊野村白皮製造成績	一四
農家行事	一五
自作農の話	一六
靈感實話	一九
胚芽米について	二〇
竜田村巡禮記	二五

發刊の辭

有象生

天さかります 大御中主の神を拜體しまつりて、聖農社を創設し機關紙『聖農』を發刊する事に致しました。

元より渺たる月刊の一小新聞ではありますが、瘵疲沈滞せる産業發達の前驅をなし行き詰まれる農村振興の魁をなし、其の實力を涵養し、進んで人類生活の向上に努力貢獻し、汎く人類の生存權の確立擁護擴張を企圖し、更らに聖農を基調とする大千世界を完成する我が神ながらなる聖農家必然の理想を實現し且つ其の聖力の培養に貢獻するの使命に任じ、更らに更らに昭和聖代以後の聖農を基調とする大千世界を完成する聖く、正しく、大きく、強く、新らしく、美しく、男々しき聖農士の足跡を以つて、莊嚴する大曼茶羅となさんが爲めにもと次號より此の紙面の大部分を白紙の儘、謹んで讀者諸賢の前に捧げる。讀者諸賢は主として名譽ある聖農士の名に依つて號を重ねる曼茶羅の莊嚴に精進せられん事を希望して止まないであります。

紙面は甚だ狹少なものでありますが、之れを中心とする聖農家諸賢の努力の足跡を、

此の曼荼羅の上に顯現せば燦として後人を啓發するに足るの光輝を發するに至る事は期して疑はぬ所であります。

即ち後人を啓發奮起せしむるは先人至上の名譽にして、従つて後人の爲め聖き、正しき、大いなる、強き、新らしき、美しき、男々しき足跡を遺す業の、如何に有意義なるかに想到する時、吾人の心靈のときめきを、肉體の躍動を禁じ能はぬであらう、まして聖農社の名の下に團結せらるゝ聖農の闘士が、大にしては國民の福祉の爲めに、廣く人類文化の爲めに、小にしては疲弊困憊の極にある農村に對し、振興戰の最前線に立ちて、靈魂を捧げ身命を賭して自己即社會民人の爲めに、奮闘する武者振りの如何に男々しきかに想到する時、大を天地と競ふが如き豪壯の氣魄を生じ、行つて不可能なき靈妙の體力の宿れりとさへ感ぜざるを得ぬのである。

茲に聖農闘士諸實の其の氣魄と其の體力とにより、如上の目的貫徹に努力を希ひ不肖等之れを誓ひ敢て發刊の辭となすのであります。

社説

『吾人は生きねばならぬ』これ生ける者の根幹をなす欲望であつて、この欲望を到達する爲めに要求せらるゝ正しい意味の生存權は國家に對しても、社會に對しても誰憚らず高調し得る絶對の權利であらねばならぬ。

而して生くる爲めの最大なる營養素は幸福である。即ち幸福の併はない生存は呪はれたる生存の骸であつて『吾れ生きたり』と明らかに意識し得ない『生きねばならぬ』

らぬ『生存權』この言葉は『幸福』なる觀念を必要とする。

翻つて吾人『聖農』を營む者の既往に觀み現在を稽へ『吾れは生きたり』と明かに意識したる時代が多くあつたか、多數にあつたか汗と脂との對價であり、慰めであり、矜りである『農は國本なり』との聲さへ今日では擲論であり侮蔑としか聞えぬはどてないか

聖農家がかく謂れなき忍柔の生活を強へられたのは今に初まつた事でないが、江

戸時代が殊に甚しかつた『百姓を治むる法は一年入用の食料丈けを殘しその餘は年貢に取り彼等の手元には財の餘らぬやうに且つ不足無き様にせよ』(本佐錄)

それ等はまだしもである甚しいのは「農は納なり貢を納むるが專一の心得なり」「胡摩の油と百姓は絞れば絞る程出る」九で犬猫扱ひ物質扱ひか。武家政治に於ける絞取階級の信條であつた。聞くだけに只涙がこぼれる計りである。

武家が絞取階級であつた應仁亂以後殊に徳川幕府では

聖農階級は單なる生産機關であると言ふ觀念の元に徹底的な統取政策が行はれたのである。古來聖農階級は被統取階級であつたが此の時代は殊に甚しい。

然らば立憲治下國民同權の今日にあつてはどうか、武家に代るに資本家が擡頭したに過ぎぬ。統取階級が資本家で被統取階級が聖農従事者であることに變りはない『農は納なり年貢を納むるなり利子を納むるなり』である。

聖農家は筋肉労働偏重で機

性精神偏重の情操を陶冶されて居る、これが爲め國家組織に重寶がられて居る併し知的方面が眠つて居る故に統取階級にしてやられるのである。

聖農士よ何故醒めぬ何故求むべきを求めぬ。

茲に於て叫ばねばならぬ。醒めよ而して求めよ人並の幸福を、鈍重ではあるが國家の六割を占むる其の底力で求めて得られない譯はるまい。併し如何に底力があつても調子が揃はねば脆弱である。其所で醒めよ團結せよ求めよである。

醒めよ團結せよ求めよ。現下聖農士の信條であらねばならぬ人心作興も産業振興も醒めての上である、團結して後である。醒めてこそ團結してこそ求むる者は與へらるゝのである。句々たる感情を捨てよ。小異を抛て。而して區々醒めよ。團結せよ。而して求めよ。



聖癡

鈴木梅子

初秋の或る日、妾は那珂川を流れに沿ふて歩るいてゐた。

空は一點の雲さへなく澄みきつた晝さがりの小春日を懷しむ様な赤蜻蛉が幾つも幾つもすい／＼と水の上を高く低く飛んでゐる。暫く外へ出なかつた妾は譯もなく嬉しく足の運びも自然輕かつた。

くる／＼と日傘を廻はしたり小歌を口ずさんだり足もとから飛び出しバツタを迫ひかけて走り出したりし

た。

『兄ちゃんまだ釣れないの』

すぐ近間の叢から不意に聲がしたので吃驚して其の方を見た、十五六位の男の子が釣りをしてゐる。其の傍に顔だての調つた九ツあま

りの女の子が足をなげ出して頭をかしげて聞えてゐる

可憐な様子になんとなく心を曳れた妾は、其の子の顔

を見て痛ましさに胸のふさがるを覺えた。

美しい子は盲目なんだ、終

氣の毒になつて立ち止まつて暫らく顔を見守つてゐた

不圖こんな事を考へたりした、若し男の子の見ない間

に堤をころげ落ちたらどうしよう。妾は不安でたまらなくなつた。

男の子は黙つて浮きを見つめてゐる。

妹「ねえまだなの……」

兄「今すぐだよ」

妹「あたいつまらない」

兄「今度は屹度つれるよ」

妹「本當？」

兄「むう」

妹「兄ちゃんは先ツきから一つもつれないのね」

兄「今度は大丈夫つれるよ妹「そう」

可愛クニツコリした其時浮きがビクリと動いた

兄「みいちゃんかゝつたよ

妹「あら嬉しい」

聲と同時にビューと竿を揚げた、しかし何もかもつては居なかつた。

妹「とれて？」

兄「みいちゃん駄目だつたよ」

男の子はがつかりして居る女の子もとてもつまらないう、しばらくして

妹「ねえ兄ちゃんお魚は陽に方つて光るつてね本當」

兄「光るッ……何故そんな事を聞くの」

妹「だつて君ちやんがそう言つたわお魚の光るのはとても綺麗なんだつ

てそれが見えない人は片輪なんだつて……あたいた片輪でなんか無いわね」

× ×

兄男の子は何んとも言はずに唇をデツとかんで水の面を見つめてゐる。其の目にはキラリ涙が光つてゐた。妾はハツとして目をそらせた。兄の妹を思ふ心と妹の餘りに無邪氣な心を思ふと目がしらのあつくなるのをどうすることも出来なかつた。

兄「みい子歸らう……」

其の聲はふるへてゐる妹は兄の心を知つてか知らずにかおどろくして素直に

手を曳かれて歸つて行くのであつた。

妾の心はスツカリ滅入つて仕舞つた。たつた今まではしやいでゐた氣持ちは何所へやら。あたりが急にまつ暗になつた様に感ぜられた可憐なあのみいちゃん、片輪何んと言ふ呪はれた、冷たい言葉だらう肉身愛に護られて其んな冷たい言葉さへ知らずに育つた氣邪氣なみいちゃん……

あの時兄ちゃん胸はどんなに苦痛であつたらう。妾は二人の立ち去つた後を何時までも何時までも立ちつくして居た。

我れに歸つた妾は其時雨の

手を胸にしつかりいだきしめてゐた。

妾は一心に神の御名を呼んだ。妾はそうするより外仕

方がなかつた。

「あの美しい、不幸な、片輪の乙女に限りなき慈みをあた玉へ」と心から合掌した。

其事あつて以來妾は片輪な人病弱な人に逢ふ時立ち止まつて神の御名によつて其れ等の人の救はれん事を祈る癖がついてしまつた。

四十餘年農具の製作に精進せる

發明 王 坂 本 榮 助 氏

專賣特許 四、 新案登録 六を得

名譽

を超越し、財寶を隠れたる偉人である。

超越し四十餘年間黙々として農具の改良に一意精進する坂本榮助氏は平素沈思寡黙、可驚天才的頭腦の持主にして又當代稀に見る典型的な篤農家であり、發明家であり、双葉の生める未だ

無いのを見ても其一面が窺はれる。(昭和四年調)

偶々蝸牛角上の争に浮身を窺す者魔の如き吸血鬼の臺るあつて小局は僅かに動けども大局は眠りて靜寂太古の如く社會公衆の爲めに奮起する者の如きは未だ曾てあらざりしなり。

斯かる土地柄に生れ乍ら徹頭徹尾公共の爲めに、大に貢獻するあらん事を唯一の

念願として勇往邁進する偉人坂本氏を有する事は

双葉

の矜りであり、かゝる偉人を廣く紹介し得る事は、我紙の矜りとする所である。

氏は双葉郡富岡町大字小濱字反町二番地に、他に見る事の出来ない、恰も嚴格其者の様な故政藏氏を父として生れた。政藏氏は氏をして醫業を以つて大成せしめんとした、所が氏は明治二十一年まだ勉強盛りな十八才の頃同地の高等小學校在學中既に日本一の農具を發明せんとする堅い信念の元に、先づ馬耕機の製作に志

して居た。之れが爲め父の心に逆ひ素封家で有り餘る程の父の資財はビタ一文も融通して貰ふ事は出来なかつた。

それでも衣食に事缺く程の事は無かつたが、資金の乏しいため、氏の發明事業が非常の滯滞を來した事は言ふ迄も無い。

其の頃農家又は其の補導の任にある官廳等の農具に對する意見は何度であつたか「道具はどんな者でも好い勤勞さへすれば農家は其の日を過せる。身體さへ虐めれば暮しは立つ農具は山刀削り以上の者は奢りの沙汰

である」と信ぜられ勢力の冗費等と言ふ

問題

は殆んど考へられずとも居なかつた、農家は汗水たらして一生懸命鍬や萬能や備中鍬で手掘りに耕さないで、馬耕等は身上切りで馬殺しであると言つて、之れを省みるものが無かつた、この父の心に違ひ、この社會通念の裡に農家は將來そんな姑息な考では破産する外は無い、一人で幾倍振りの能率を上げなければいけない、そうするには機械の力に俟たなければならぬ、と父の怒りや社會の嘲笑を浴び乍ら、暖飽の身に

て雄々しくも奮ひ立つた、氏が尋常一樣の人で無かつた事が明かである。

氏は難業苦行の間に殆んど獨創的に邁進した、十八才にて農具殊に馬耕機の發明に志した後三十年位の間は一日四時間より多くは眠らなかつた、其れも碌々眠らず徹夜を續けた夜が多かつた。

心力を集中せしむるため寒中とは土間に荒蕪を敷いて端座し、工夫に専念し尙寒氣膚を裂くの日も、雪や氷の流るゝを厭はず川水に投じて水垢離を取り精神の統一を計つた、

殊更

氏が坂本式萬能犁の專賣特許を得るまでは並大抵の苦心、努力では無かつた、身命を賭して苦闘したのであつた、が更らに之れを實地に試験する爲めに拂つた努力も之れに優りこそすれ、劣らないものであつた、氏は自己の發明に係る萬能スキに工風を加ふる毎に各地各様の土壌を試耕する爲めに茨城、栃木、宮城山形の各地を遍歴した、出發には新しい木綿衣を着て出掛けるが、歸途は何時も乍ら股の脇と兩肩には穴が開いて居ると言ふ始末で此の骨折りは到底筆にも口

にも盡す事の出来ない程のもので、例令は寒さに向つ

ての試験には晝前は田が凍つて居るから午後開始まつて遅くまで試す、それが終つて町に出て宿屋に着くのであるから遅くなる、雪など降り込められ濡れて凍えて慘らしい姿で宿屋を断られたり、雨のためぬれ鼠となりたる衣裳を着たりに乾した様な事はさして珍らしい事で無かつた。

氏が馬耕機の發明に志して苦心慘澹二十一年、即ち明治四十二年會心のスキ成りて初めて坂本式萬能スキの專賣特許を得て、には

かに名聲を博した。

併し氏は其んな事で満足はしなかつた、特許證が手に入る頃には既に更に部分的に改良を加へて居ると言ふ勤勉振りであつた。

それで少くとも年に二三度の大改良を加へる、斯様な風で費用のみ増大し資金は窮乏したが少しも省みる所が無かつた、唯完全なる農具の發明それが唯一の理想であつた、それは若し今日まで試作せしものを貯い置いたなら山をなす程の數であつた事を以つても立證し得る。

大正十二年二回目昭和四年

に三回目の專賣特許を得て居る、茲が坂本氏の面目躍如たる所、

改良

に加ふるに改良を以つてし、勞力と費用とを客ます研鑽怠りなく我國農業界の爲めに貢獻を怠らない。

氏は馬耕機のみでない除草機、土碎機其他の農具でも專賣特許一、新案登録六を得て居る。此れ等の農具も馬耕機と同じく各方面種々な耕地で試験して居る、除草機試しはスキと違い一日何回となく次から次へと水田に這入るので、股引を穿くのが五月蠅から尻からけ

で行る、それでブユに喰はるゝため脚はすき間もなく黒斑點を生じ處によりては蛭が多いから膝から下一面に疵が出来て期節中は脚一面完膚なき有様である、人は之れを惨めな者に見るが坂本氏は之れをしも無上の快樂なりと言ふて居る。

で、本年特許を得たスキは理想に叶へしものと氏自身も思つて居るのであるが本年福島縣農事試験場にての比較試験成績に見るも供試スキ五十四種中最大深サが六寸五分なるに、坂本スキは如何なる方法にても自由自在なる上八寸位の深サを

人も馬も樂々と出来るのである、従つて土の碎けも非常によろしい、

除草

機も二つ組にて一丁の者よりも軽く使へる位で少くとも一人で一日五六段歩位は樂に押せる、最高速度で行ると一段歩二十五分位で押せる、此の機械を用ゐれば手取共五回にて一段歩は年分一人五分位で充分仕上げる事が出来る。而して何れを使ひし者よりも稻の出来榮えが非常に良好である。

此の域まで來ても氏は一日と雖も研究を怠らない、其の部分につき改良に改良を

加ふる事に孜々勉勵して居る。氏の努力は單にそれ計りではない、發明慾は益々高調しこの頃は風呂竈の研究に従事し模型が完成したこれは極めて合理的に製作され、極めて僅少の燃料に

て沸かし得る計りでなく取付が容易である、即ち桶風呂に仕付けて好く、角風呂にも好い燃料は塵「ゴミ」でも沸くが一番適當したる燃料はコークスであるそれで時價十錢以下の燃料で充分である。

氏の發明に係る馬耕機又は除草機は能率の上で、堅牢の點で優秀なのは勿論であ

る、氏が弱冠の頃の信念たる日本一の農具たる名を耻かしめない、獨り能率の上から計りでなく構造が大量生産に適して居る點が勝れて居る、併し

遺憾

な事には土地が狭い爲めと氏自身は自ら估らない人なので資金を得る事が不意手であるから儲かる商賣が儲からない、尤で寶の持ち腐れの感があるのは呉々も惜しい。

主なる特許と登録は

△特許第一五二九號

坂本式萬能スキ 明治四

十一年十一月廿八日

△特許第三九六八六號

同 大正十年八月廿三日

て居る。

△特許第四四九五一號

同 昭和四年十月五日

△除草機特許一、其他の新

案登録六

苦勞すると頭が禿げると言

ふ俚諺があるが氏はオビン

ズル様の様に能く禿げて居

る。四十餘年工夫考案の爲

め頭腦を痛めた名残であら

う、併し坂本氏は體力に於

て絶倫、氣力に於て遠かに

壯者を凌ぐものがある、之

れは絶對秘密に屬し何人も

其片鱗をだに知る事は出来

ない、が現今氏は晝は一室

に籠り夜は床の中に模型を

置き連日連夜考案に没頭し

氏の精力を傾倒して考案する者は農具に

電動力を應用する事で

ある（これは側近者の直話

である）日本一の農具を發

明する念願は馬耕機の上で

は到達したと言つて過言で

ないのである、が更らに氏

の研究は止まる所を知らず

電動力應用耕耘機の上に顯

現するに至らば世界一の發

明王として氏の眞面目を發

揮するてあらう、そして其

れは餘りに永い歳月を要し

ないであらうと言ふ事であ

る。

聖農社要則

第一條 本社を聖農社と稱し本部を福島縣平町に

置く

第二條 本社は人類生活の向上に努力貢獻し特に

會員又は會員の資格ある者及び其の家族

の生存權の擁護、生存權の確立生存權の

擴張を圖るを目的とす。

第三條 社員たる資格を定むる事如左

一、聖農従業員

二、聖農に縁故ある業務の従業員

第四條 本部に總務一名、本部委員若干名、支部

に支部總務一名、支部委員若干名を置き

社務を處理す。

第五條 本社の活動方針は社員總會に於て決定し

社務執行方針は本部委員會に於て決定し

總務之れを執行す。

第六條 本部に於て毎年一回乃至二回社員總會を

開催し必要ある毎に委員會を開催す。

第七條 本社の經費は特志の寄附に俟ち別に定む

るまで社員より社費を徵集せず。

第八條 特に選まれたる社員に對し聖農章を交付す。

第九條 本社に出版部、傳導部、相談部、調査部

を設け各部に部長、副部長各一名、各部

幹事若干名を置き各部の機能を發揮せし

む。

第十條 本要則は總務の招集したる社員總會に於

て出席員三分の二以上の賛成を得て改正

補足する事を得、普通の議事は過半数を

以つて決す。凡ての議事は資格者過半数

の出席あるを要す。議事細則は議事の通

念に従つて總務の定むる所による。

第十一條 本會に於て總會を開くまで左の創立役員

を以つて社務を執行す。

第十二條 本社の創立役員如左

總務 未定 傳導部、相談部、調査部

長 横田忠次郎 出版部長 新井勇造

其他の役員未定

特に法律上の相談に應ずる爲め法律顧問

を辯護士千葉彦治氏に囑託す 以上

本年荊野村

白皮製造の成績

本縣双葉郡荊野村での成績によれば、生枝條二十貫から乾燥白皮一貫七百五十匁（生枝條）に對して八分七厘五毛の歩留を得一貫匁一圓六十錢に販賣せり尙同村では生枝條反當り二百八十四貫につき乾燥白皮一貫二百五十匁（生枝條に對する六分五厘四毛の歩留）を得更に之から半紙七百五十枚を製造した、尙他縣の分を參考にすると

▲長野縣常磐村の試験成績▼

品種	小牧	枝條太	枝條細	下均
生枝條	一〇〇貫	一〇〇貫	一〇〇貫	一〇〇貫
蒸上げ	一五六貫	一五〇貫	一五三貫	
生白皮	一六貫	一八貫	一七貫	

生澁皮 一五貫 一八貫 一七貫五
生白棒 一一九貫 一〇七貫五 二三貫五
乾燥白皮 六貫八 六貫八四 六貫八二
以上の通りであつて一反歩の桑園から生枝條二百貫を得之れから乾燥白皮十四貫十匁を得一貫匁一圓六十錢に販賣して十二圓四十二錢を得た

中川前本縣土木課長

歐米視察談

道路は米國が一番

日本の様な砂利敷き道は三ヶ國だけ
前本縣土木課長中川幸太郎氏は今夏六月中歐米視察の途に上り視察中長崎縣土木課長は榮轉せるか去る三日歸朝して語る今夏六月出發し、海外旅行期間は約五ヶ月半だつた、その中の二ヶ月は勿論船中生活だから眞の視察は三ヶ月間位だつた

その短時日に兎も角も歐米各國の主要なる四十三都市を視察して來たが先づ道路交通の方面で一番完備してゐると思はれるのは米國である。次は英國、佛蘭西、獨逸の順位であつた、更に道路面に日本の様に砂利石を用ゐてゐるのは伊太利、奧地利、瑞西のみであつた、米國の事は兎角眼に着いたが米國では自動車税が安く、ガソリン税が重くて年額約七億圓位の多額に達して居た。それを全國道路面の改良費を始め一般土木費に投じてゐるから今日の如く世界第一の道路となつたと思はれる。

不思議なのは獨逸で目下頻りに市街地の建設道路の改良を行つてゐるが、これは年額四十九億圓の賠償金を今後五十ヶ年間も續いて支拂ねばならぬので商工業を一層發達せしめ全國は勿論、全世界に安

價な商品を出さねばならぬ見地から運賃を安くするため通路をよくする必要からなそうだ。日本は歐米に比べて土質の點は差違ないが濕氣が多いから直ちに眞似る事は不可能で、道路政策は大いに參考となつた。日本の道路を破壊するのは荷馬車であるから將來はこの點に就いて研究をなす必要がある。

農家の行事

十二月上旬

苗代田及び乾田の秋耕
麥類の土入踏付
果樹類の剪定
促成栽培及軟化栽培
堆肥の製造
同 中旬
堆肥の製造及米の調製

菓細工

鶏舎畜舎の防害設備

茶樹に寒肥をなす

同 下旬

諸帳簿を整理し收支計算

葡萄冬季剪定

果樹園の清潔法施行

社 告

時代の趨勢と地方の實狀とに鑑み農家の機關として月刊新聞「聖農」を發刊し文化の促進、農村振興地方改發の先驅者として第一線に立つことになりました何卒御指導と御鞭達を願ひます。

追つて誌面の大部分を讀者に提供し一般の研究に資したい考でありますから奮つて御利用あらん事を切望致します

聖 農 社

投稿規定

- 一、農蠶業の經驗、實驗、研究談
- 二、各種組合、各種團體等の活動狀況
- 三、文藝、論文、和歌、俳句、其他
- 四、名所舊蹟の紹介
- 五、原稿は可成二十字詰原稿用紙に四十行以内たる事
- 六、希望により紙上匿名は差支へなきも原稿は一切返戻せず
- 七、投稿者は住所氏名を明記し毎月十日までに本社に到着する様郵送せられ

たし

自作農の話

代議士 土井 權 六

一、農村社會問題

今や我國に於ける農村社會問題として農

二、自作問題の現在

政學者と云はず政治家と云はず、深甚の注意を以つて研究しなければならぬ問題は小作問題、自作問題、都市集中と農村問題との三つである。固より農村の生活が安定し且其生活が愉快であるならば決して小作爭議も起らず自作の困憊も無い況や住み慣れたる故郷を打捨て、離村するが如き事もある筈は無い。處が現在の農村は大地主、金満家はさて置き、中農以下は生活上不安を感じて居るのである其處で如上の農村社會問題として小作問題、自作問題、離村問題が起る。

故に是等の社會問題解決の前提は云ふ迄もなく農村生活安定と生活慰安とであるが差當り自作農を如何に維持するか小作農を如何にして自作農たらしめるかが現在の政治問題として取扱はれて居るのである、即ち自作農創設問題である。

從來政府は自作農問題に關し幾多の施設をなして居つたが、稍や見るべきの施設は先年新設は先年新設したる自作農補助政策である、稍や見るべきの施設は先年新設したる自作農補助政策である、即ち昭和元年度より、二十五ヶ年間に一期とし簡易生命保險積立金の低利資金を長期償還の方法に依り各道府縣に融通するの計畫を建てた事である。處が其規模が餘り小なるが爲め現在の小作農百五十萬戸をして自作農たらしめんとするには徹底して居ない、恰も二階から眼藥の感がある、即ち其資金として計上せられて居る總額四億六千八百五十萬圓、補助金額一億〇二百九十萬圓の豫定であつて大體十一萬七千餘町歩を維持創設しようと云ふのであるが、我國現在の小作地面積の約

二十三分の一にしか當らないのである。加之以上金額を一ケ年に割當つれば僅に千八百七十四萬圓にして更に之れを日本全國市町村數一萬二千に割付けたならば一市町村の一年割當金額は僅か千三百九十圓である、如斯僅少なる割當金にては到底完全に自作農を維持創設することは出来ない、之をしも二階からの眼藥と云はねば何と云はう。

三、政友會案

現在の自作農政策に満足せずして政友會は少くとも毎年一市町村に對し八千圓以上の低利資金を供給し以て自作農の完成を期さんとしたのである、即ち從來の簡易保險よりの自作資金以外に更に預金部借入金又は農地債券發行により毎年八千萬圓の資金を作り、自作農問題の解決を圖り一方に小作爭議の根絶を企てたので

ある。其前提として本年度より毎年三千万圓の借入又は債權の發行により自作農の創設維持を年五朱の金利にて助成せんとし自作農法案を出した、此法律が通過し毎年三千万圓の資金が出來たならば從來よりの資金と合算して一市町村一ケ年の平均割當は四千圓以上にして現在の千三百九十五圓よりは餘程徹底して居るのである。然るに不幸にして民政黨が貴族院を煽動して遂に此の案は貴族院に於て審議未了に終つた事は實に我が農村の爲め遺憾に堪へ無い、否民政黨並に貴族院は我農民の敵なりと云はなければならぬ

四、頭熱足寒

由來民政黨は第五十六議會に於て農村保護政策には逐一反對して居る。現に自作農法然り、地租移讓案にも反對した、肥料管理案にも反對した、如此して農村の

疲弊を益々助長せしめつゝある、現に我國の經濟現狀は正しく頭熱足寒の病的である。論より證據農民が孜々營々として働きて得る収入は各種の租税として中央政府に徴集せられ、或は郵便貯金となり或は勸業債券となり、或は簡易保險金となり、或は各種の日用品生産品代となりて都會又は中央に集中し農村は金融枯渴し、金利は高く借金は嵩まる。現に郵便貯金の如きものすら一昨年經濟界恐慌以前は其の總額十二億内外なりしもの今や十九億となつて居る。其他資金偏在資金集中の聲が喧しき現狀である、實に頭熱足寒の現狀である。

故に吾人は資金還元の方策としても痛切に自作農維持創設のために農村に低利資金（年五朱の利息）を供せんとしたのである。即ち政友會は我國家の經濟狀態

を頭寒足熱の健康體たらしめんと企てたのである、然るに民政黨は政權爭奪を企て我政友會の各種農政策に反對せしめたのである、返す還すも民政黨は我農民の敵なりと斷せざるを得ない。特に民政黨は都市偏重主義を實現せんとし一切農村生活安定策の持合せなき政黨であると云ふ事を茲に豫言して置く。

靈感實話

一記者

松本津與志は分別盛の實直な四十男である。突然後添に死なれ三人の幼兒の世話で氣苦勞をして居るのに加へて、突發的な本家の大問題にぶつつかつて頭を痛め抜いた。

問題七日目むづかる幼兒を寝かしつけて總領（先妻との間の）が所用から歸るの

を待つ間爐側で脰を曲げてトロリとしたカラ／＼コロ／＼新しい足駄の音、誰か来たなと思つて居ると、門口で『おんつあ おんつあ』（おんつあは小父、叔父伯父の方言）けた／＼ましく三聲程呼んだ其れが本家の婿、重の聲であつた。

『野郎又夫婦喧嘩を初めやがつたな』とアタフタと下駄を引つ懸けて出て見ると誰も居ない、歸つた下駄の音もしないが不思議だなアと考へた時、津與志は脊筋に冷水を流された様にゾウツとした。

重は今一里半計り離れた重の實家で大怪我をして九死の重體を病床に横たへて居る筈である、此處まで來られる道理がない不氣味な其の夜の明け方である、重の死亡が傳へられた、さてこそ。

『知らせ』『人心感應』何うでも好い、何故、重は遠い路を重態の身で高駄穿き

で通つて來たのか、重は常に客食に近い節約家であつたが、重床に就く朝に什麼考へたか新らしい足駄を買はせて穿いて出かけたのであつた。

大問題とは何んであるか、重は何故怪我をしたか。今其れを語りたくない、『奇しきは人の靈魂あるかな』其れを報じたのである。

双葉郡龍田村に實在した最近の事實談である

胚芽米について

福島縣農事試験場石城分場

S 生

吾々日本人は古より米を常食として居ります。古より現今吾々が食して居る様な眞白な謂所白米を食べて居たのではありません。

皆玄米を用ゐて居たのが段々人智の進むにつれ、甘味を好む様になり従つて玄米よりも搗精米を好み、漸次今日の様に精白米が一般に用ゐらるゝ様になつたのであります。

のみならず此の頃では白米のみでは氣に喰はず、より以上外觀を見良くする爲めに砂を入れて搗き米に光をつける様になりました、それで之れが一般に喜ばれる様になつたのです。

所が米の性質から言ふと人間に營養になる物質がだん／＼無くなつて、完全な澱粉ばかり食べてる事になるのです。即ち米の中で一番人間に重要なものは米粒の頭について居る乳白色の所なのです、此所にて所謂グキタミンAもBも入つてゐるのです。次ぎは籾と米との中間にある部分で小糠として捨てらるゝ所なのです。

所が現今では搗精によつて、大東な胚即ち乳白色の部分の第一に取り去り、次ぎには砂まで入れてつくのですから小糠は完全に取り去られ、之れで營養分がすべて失はれ残るものは澱粉だけです。澱粉だけなら甘藷や馬鈴薯を食べるのと何んの變りがありません。

其れ故に世の中が進むに連れて脚氣患者や身體の弱い人が多くなるのであります。脚氣病の原因は判然とは學術的に未だ發表されてゐませんが、最大原因は白米を食ふ事にありと言はれてゐます。其れ故軍隊でも七分三分の麥飯を用ゐ多くの學者達も米は胚のついたもの即ち（胚芽米）を用ゐよと言ふ事を盛んに言つて居ります。

胚芽米の營養と効果

胚芽を残してついた米、即ち胚芽米は玄

米より全然胚が除かれて居りません、半つき米でも胚は残つて居りますが、白米に馴れて來てゐる人には一寸色も悪く、不甘味いのです其れですから脚氣の豫防として玄米や半つき米を盛んに唱へても案外普及されなかつたのです。

胚芽米は殆んど普通の白米につき上げ一〇〇%胚芽の残つて居るものは理想ですが之れはつゝのに非常に困難ですから普通は八〇%残つて居るものを上等六〇%のものを通常として居ります。

胚芽米にどんな營養があるかと申しますと先にも申し上げました通り『ヅキタミンA、ヅキタミンB 其他蛋白質、脂肪、磷、鐵と言ふ様な人間の身體に缺くべからざる大切なものを含んで居ります。或る學者の調査によると胚芽米の殘存數から見て四合の米の中に含んでゐる『ヅキタ

ミン其他の營養分を他の副食物から取るにすれば、魚肉だら四百二十匁、豆腐だと約八丁、牛肉だと約半斤も食べなければそれに相當する丈の營養を得られないと言ふ事です。

之れから見ても如何に胚芽米の滋養の多いかがわかりますし、尙脚氣病の病因はヅキタミンBの欠乏からだと言つて居りますから、之れを用ゐると脚氣の心配も無い理由です。次ぎにヅキタミンAは人間の發能上大切なもので之れを欠くと夜盲症になる事があると云ひます。

蛋白質は體を作り生活力を供給するに誠に重大なものでありますし、磷は腦の細胞を養ふに必要で之れを缺くと神經系統の病氣にかゝり易いそうです、尙又胚芽には澱粉を消化する一種の消化原素を含んで居ると言はれてゐます。何れにしる

米の胚は米それ自身が目的を達するため營養を含んで居りますから、之れが人體に及ぼす影響も亦甚大なるものであります。

胚芽米の炊き方

一、米を洗ふのにあまりこする必要なく唯ゴミを取り去る位で好いのです普通の白米は洗つて置く程お甘味しいのですが之れは炊く直前に洗います。

二、白米のよりも水を少し多く致します三、少量の時は水炊きで良いのですが大量の時は湯を用ゐた方が良いでしょう、火の炊き方は普通の白米と同様です。

四、蒸し方は普通の御飯よりも十分か十五分位長くします。

以上は鳥園博士の工夫なされた炊き方で

すが、大變に特別な注意も必要ない様です、始めは少し小糠の臭味があるので嫌がる人もありますが、お互の健康の爲め先づ理解で以つて習慣をつける事が必要です。陸軍省でも最近半數此の胚芽米を用ゐて居るそうですが、脚氣罹病率は統計上大變減じて來るそうです。目下用ゐてゐる一人ですか大變具合が良い様ですから御進めして筆を置きます。

〔終り〕

原稿募集

第一題

若き聖農士よ何を要求するか

第二題

聖農士服制案(服裝制定の案)

第三題

いつそ死んで仕舞ふかと思ひ詰めた話

投稿規定

- 一、文體隨意（別り易く）
- 二、字數千二百字以下なるべく十七行廿字詰原稿紙に記載の事
- 三、本紙に掲載せる分には薄謝を呈す
- 四、匿名差支なし但し原稿には住所姓名を明記の事
- 五、宛名は石城平町字田町一番地 聖農社編輯部と明記する事
- 六、投稿に投稿票なきものは無効とす

聖農社昭和五年一、二月
號投稿票

豫告 横田有象

三郡巡禮

手始めに創作『双葉郡龍田村』
本年猛夏の候より宿痼俄かに昂進し病床に親しみ近頃やうやく小康を得たれども未だ遠路の歩行に適せず、折角農村の實狀紹介の爲め三郡巡禮を思ひ立ちたれども身體兎角憶却なり。不得止本號は居ながらにして爲し得る居村龍田村の實狀より得たるを基礎觀念として創作せる『双葉郡龍田村』を掲載して之れに代へ次號よりは毎號濱三郡二三町村を巡禮し其の實狀を紹介せん事を豫告す。

×

×

創作

『双葉郡龍田村』

或る日、

銷沈其者の様な、生氣を失つてドンヨリと曇つた眼で双葉郡龍田村の一農士は斯く語つた。

『幼なかりし頃、陸奥の安達が原の黒塚に鬼の住めりと語り傳ふるを聞ける事ありき。行き暮れて難澁する旅人を救ふと稱して怪しげなる破ら家に誘ひ、詐りて石に枕せしめ、槌ン棒（藁を打つ道具）もて腦骨を徹塵に碎きて一命を絶ちたる者幾何なりしかを知らず、其の蒼白く飛散せる肉體と、どす黒く凝結せる血液とは身の毛もよだつ無氣味さなりしと。如何に未開の時代物騒がしき時世なりしとは言ひ、天さかる白日の下、かゝる慘劇の實在せらるゝ謂なし。單なる傳説に

てあれかしと祈る心にさへなりしが、類なき大御代の立派な村に現在これに勝るとも劣らざる無氣味なる一家ありて無氣味なる慘劇の繰り返へし繰り返へし行はるゝこそかなしけれ。』

農士は聲を落して最もホッ／＼と語れり

『三十年程前まではおほぐきの赤鬼と呼ばれたる人里離れし山奥の一軒家にて其の家の妻の父と兄とが中通方面にて類稀なる兇行をのみ働きたりし故捕手を差し向けられしが、之れに抵抗せる爲め終に幕吏に斬殺せられし不浄の一族として交はる者もなかりしが、歳移り星かはり里に移り住む様になりて善からぬ事のみを爲す故。』

大莖にかくれ住みたる鬼の孫、今は世に出て人を喰ふなり。

と里人の歌へる程惡事の數をつくして財を積み、併し乍ら限りなき惡業を積める資財の力なりとは言ひ人道に背きて築ける砂上の樓閣なりとは言ひ、今は金の世の中堂々の門戸を張り兎も角も（やわか晴らさで置くべきと骨髓に徹する、怨みを秘めたる悲痛の聲にて）呼ばるゝ男なれば特に名を秘す』

農士は平調に返へりて語り續ける、

『安達が原の○婆彼れは宗家を再興せんずの殊勝なる念願を有したると、石に枕せしめて塹ン坊でボコンと腦骨を碎くなんて生きた人ならこんな間緩い手で殺される者は恐らく無からうと思はるゝ程、稚氣満々たる手段を取つた席ろ無邪氣さには同情の餘地あれども、村の鬼の孫、

此れは犯罪によつて獲たる財寶にて門戸を張り、畜妾、美衣、贅澤三味等の虚勢によりて暗に人を脅威し暴力、偽瞞、誑詐、拜み倒しあらゆる陋策により地位を得れば官邊をさへ脅やかし、罪を犯して刑罰を免かる實に一點の厚意を寄すべま點なし。

由來この村は人情敦厚にして勤勞を喜ぶの氣風あり、郷土人和し洋洋として春水草豊饒の地に群羊の生を樂しむが如き和平郷はりしが、彼れ等の一家移り住みてより恰も豹狼の暴威を振ひ、群羊を貪嚼するが如く、常人の面を背くるが如き陋劣にして冷酷なる手段を以つて、人を虐め、財を掠め妖怪の如く血を吸ひ肉を喰ひ骨をさへ舐りて飽く事を知らざる赤鬼族の蹂躪する所となれり。

村を知らんとするものは先づ此の鐵面皮

にして耻を知らざる、妖魔赤鬼一家を研究せざるべからず、妖魔を研究せんとする者は彼れの罪科を挙げざるべからず、彼れの罪科を挙げれば蓋し九牛に汗すると形容するも強ち誇張にあらずして到底筆紙の盡すべきにあらず。茲に只其の著しきものゝみを語らん。

一、既に刑せられたる罪

詐偽、横領等の破綻罪懲役四犯
傷害其他の罰金刑五犯

二、曝かれざる罪として歌はるゝもの

イ北山村長を殺害して金三百圓を奪ひ鐵道にて磔死せる如く装ひ終せる件
ロ自分の罪の曝露を恐れ貰ひ子某と共に謀して山路義穂氏を泥酔せしめて撲殺し運炭専用車にて磔死せる如く装ひ終せたる件

ハ双葉郡廣野村地内、地藏院の僧侶に

十圓の債券を千圓に書き替へよと迫り應ぜざりし爲め絞殺せんとし半死半生の傷害を與へたる件

ニ先妻の妹（現在の妻）と通じ其の教唆により先妻を虐殺せる件、秘かに致命に近き打撲、裂傷等を治療せる醫師某氏の言によつて明かなり。

ホ長女某が私生兒を妊娠せるを奇貨とし多數の者を恐迫して金品を繰き上げたる件

ヘ妾をして資産家の次男坊と自宅にて通せしめ、農工銀行預金其他多額の商品を繰き上げたる件

ト投票管理者青山村長を脅迫して投票函を開かしめ、投票の書き替へをなし郡議に當選したる件

チ貯金講と稱する無盡を組織し第一回掛金一人五十圓、掛金合計貳千圓を

詐取し刑事被告事件の費用に使用せる件

リ梵妻と通じ檀那寺の貴重なる財産を窃取せる件

ス小學校建築請負人と共謀して設計を胡摩化し數千圓を利得し其金を運動費として縣會に當選したる件

ル店貸しの債としてお正月の糯米既に水に浸したる者をすくひ揚げて持ち去り、餅待つ貧しき子等を泣かしめたる件

オ返濟残り僅少の貸金の代りに病人の布團を剥ぎ取り、病人を憫死せしめたる件

ワ役場學校の空き瓶を自宅に持ち來らずとて幾人も小使を罷免したる件

カ先祖の供養するため共有地の立木を窃取し盜代せる件

此の話は餘りに過激奇矯に失する爲め却つて私の心事を疑ひ快しとせざる人もあらん、私は其れを知らざるにあらず只事實の更らに深刻なるを如何せん。

神の使徒の如く純眞なる小羊の群れ住む和平郷に、かゝる豺狼の現はれたる一瞬時は人皆面を背けて指彈せり。暫らくして習ふ者出で、從ふ者出で世話に言ふ無理が通つて道理が引つ込んで兇惡極りなき個人主義者のために良俗は破壊され美風は蹂躪され終んぬ、斯かる忌はしき年を閲する事廿數年、村費は盜用され自治は惡用され、行政法規の如きは村民に義務のみを強ゆるの具に曲用され、村民擧げて其の暴虐に泣かざる者なき奇觀を呈するに至れり」と。

語り終つて農士は長息を洩らした

x x x

同志會役員

會長	猪狩
副會長	青木
同	新妻
幹事長	猪狩
常任幹事	猪狩
幹事	鈴木
	牧ノ原
	佐々木
	志田
	山内
	山内
	松本
	高野
	渡邊
	渡邊
	猪狩
	大谷

幹事

猪狩	要一
青木	登學
新妻	馨
猪狩	江
鈴木	吉
牧ノ原	治
佐々木	實
志田	寬
山内	勉
山内	金五郎
松本	幸太郎
高野	四郎
渡邊	
渡邊	
猪狩	
大谷	

此の稿を打ち切り終りと僕は居村龍田に起つた嬉しき二つの事實を語らう。

兇惡なる個人主義者の跋扈、惡き三百思想の跳梁に對峙して多年雌伏せる志士あり、山田元吉氏これなり、之の暴惡なる惡漢と惡思潮に拮抗する事多年に及び今や漸やく同村の氣慨ある青年は風を望んで翕然として起こり、精神作興の手始めに其の公存共榮を傷くる共產主義者にも劣らざる個人主義者に對し宣戰を希告し正義を樹て邪曲を制するを綱領とする鐵腸の青年志士は起つて一黨を組織し同志會と稱す。

今や同村の敦朴なる思想復興の曉鐘は愛すべき強き若人の手によつて聖打されたり。(其の念願の速かに到達されん事を祈り若き志士の名を連ねて祝福せん)

評議員

鈴木彦三郎
山内八郎
山内秋郎
猪狩徹治
橋本眞民
橋本眞民
坂本長佐
坂本長佐
久保田猛
青田筆助
結城正男
渡邊傳
猪狩猛

會計

又同村社龍田神社は大和國ヘグリ郡龍田の里より分祀したるものにして、今日まで凡そ七百年間例祭陰曆九月二十九日御與渡御祭を執行し來れるが、本年は民政派小松幹夫氏は自黨の標榜する緊縮政策

に媚び十月十五日殆んど專斷に渡御式を執行し、人寄せの爲め煙花數十發を打ち揚げ盛んに非緊縮振りを發揮し尙供奉する者なきより金ビカ消防組頭服に在郷軍人會顧問徽章、赤十字社徽章、御大禮記念章、双葉郡農會徽章等十數個（勳章にはあらず）を懸け連ね威儀を作つて金幣を捧持し驅り出したる消防手數名が汗を流して慚やく神輿をかきて形丈けの渡御式を了せり。

然るに氏子一同は此の横暴振に憤慨し例祭陰曆二十九日總代久保田清氏を筆頭に生え拔きの龍田ッ兒は勇ましき喚聲を擧げて大盛賑裡に渡御祭を執行せり、而して曰く、いくら小松君だつて外から移つて來た癖に生え拔きの龍田ッ兒を袖にして勝手な振舞ひは御免を蒙ると大變な氣焰であつた、來年の例祭は何方に軍配が上

がるか、神の審判が待ち遠しいと異端者が神罰あらんを確信して居る向も少ない。

が滅茶苦茶になつて偽造が曝露した、文福茶釜から尻尾が出るのは當然か。
(平 雀)

「句」

山もみちまだ飲み足らぬ顔をして
山峡に水と石との果し合ひ
山もみち瀧をのぞひて赤い顔

橘 華

支社設置公告

各地に支社を設置せんとす希望者は左の目論見書に自筆の履歷書を添へ申込まれたし。

左

- 一、會員募集の範圍
- 二、其の範圍内の會員數
- 三、雜誌購讀者數
- 四、諸經費收支概算

可笑しい小話

小泉を主犯とする國債偽造事件の偽造國債を常磐銀行に届けたのが、喫茶店文福の主人なので中村支店長は不圖『文福茶釜』の茶を聯想し茶で洗つて見た所字體

聖 農 社

毎月一日、十五日發行
創刊號に限り五日發行

【定價一部二十錢】

廣告料

特一頁	三十圓
普一頁	二十圓
一行	四十錢

福島縣双葉郡木戸村上小塙字成子内三四
編輯發行兼印刷人 新妻 勇 造

福島縣平町田町一
發行所 聖 農 社

